会　議　要　録

名　　称	第１回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日　　時	平成２３年７月２８日（木）　午前１０時から午前１１時３０分まで
場　　所	豊橋市役所 東館８階 東８２会議室
出席委員	笠倉忠夫委員、荒木仁子委員、後藤尚弘委員、植村幸司委員、 野亦真理子委員、安井広幸委員、長崎正敏委員、河合節子委員、 布藤美紀委員、長田真理子委員
欠席委員	なし
環境部職員	環境部長 伊庭雅裕、資源化センター所長兼施設課長 荻野見治、 環境政策課長 彦坂直邦、廃棄物対策課長 稲葉俊穂、業務課長 榎本貴一、 埋立処理課長 村田泰祥 環境政策課 課長補佐 荒川克己、減量推進グループ主査 大村信人、担当 後藤一紀
内　　容	１．　委員の委嘱、紹介 ２．　検討委員会の趣旨説明 ３．　委員長・副委員長の選出 ４．　議題 ５．　その他

議題の概要

議題１　一般廃棄物処理基本計画について

議題２　豊橋市のごみ処理の現状について

第１回豊橋市ごみ減量推進検討委員会会議録

日　時：平成２３年７月２８日（木）　１０：００～１１：３０

場　所：市役所東館８階　東８２会議室

司会：彦坂課長

○　あいさつ（荻野次長）

≪委員長・副委員長の選出≫

○　委員長の互選　（委員長に笠倉委員を選任）

○　委員長あいさつ

○　副委員長の互選　（副委員長に荒木委員を選任）

≪議　事≫

委 員 長：議題１「一般廃棄物処理基本計画」について、事務局から説明していただきます。

（事務局説明：荒川補佐）

委 員 長：ただ今ご説明いただきましたことについて、何かご質問、ご意見はございませんか。

委 員 長：日本全体で見ると、一般廃棄物は減ってきている。

5,000 万ｔ（H19）→　4,800 万ｔ（H20）→　4,600 万ｔ（H21）

ただ、この減少が市民の努力によるものなのか、景気によるものなのか

は分からない。

事 務 局：豊橋市の場合、この１０年で見ると、前半は増加傾向、後半からは減少しています。

委 員 長：続いて、議題２「豊橋市のごみ処理の現状」について、事務局から説明していただきます。

（事務局説明：大村主査）

委 員 長：ただ今ご説明いただきましたことについて、何かご質問、ご意見はございませんか。

後藤委員：市民１人１日当たりの家庭系ごみ排出量について、【資料３】と【一廃計画概要版】では数字が異なるのはなぜか。

事 務 局：【資料３】の場合、基となる家庭系ごみは、家庭収集ごみ・家庭持込み・５３０ごみですが、【一廃計画概要版】ではこれに加えて地域資源回収とリサイクルステーションでの回収量が含まれています。

後藤委員：“市民が家庭から排出するもの”として整理をしたということですね。

荒木委員：「市民１人１日当たりの排出量６０ｇ減量」はどのように市民に周知していくのか。広報だけでは効果が薄いと思う。全世帯配布など自治会等を通じてＰＲしてはどうか。

事 務 局：広報とよはしで特集記事を組むなどを考えているが、その他の方法についても考えていきたい。

荒木委員：一方的に「お願いします」といわれてもなかなか周知できない。
「ごみ量観察」など子供の夏休みの研究課題としてもよい。

布藤委員：（ごみ減量・リサイクルについて）主婦の立場で出来ることは何か考えている。子供と一緒になって「ごみについてどう思う？」と話し合うことが大切。

野亦委員：豊橋技術科学大学のセミナーで、自宅で生ごみを処理できるしくみがあると聞いたことがある。

委 員 長：技科大の平石先生がバケツで生ごみを処理することについての資料を持っています。

委 員 長：生ごみは水分が多く（含水率８０％）、燃料を加えないと燃やすことができない。（７０～６０％で自燃できる）
生ごみについて家庭でできることはたくさんある。

河合委員：スーパー等でエコバックの取り組みがあるが、豊橋市内では店によってバラバラになっている。周辺市町では全市的な取り組みをしている。

委 員 長：愛知県の中でもエコバックの取り組みは様々です。
ごみの発生を抑制するには、お金を取るという方法は効果的。
常滑市でもごみ減量の市民会議を立ち上げて議論をしている。
ごみ処理にはたくさんのお金がかかる。そのため、市民が意識しないとごみ排出量やごみ処理費用は減っていかない。

布藤委員：学校に持っていく雑巾は、昔は使わないタオルなどを加工して作っていたが、今はスーパーで売っている。タオルケットを加工した雑巾、シーツを加工して作ったエプロンを子供に渡すととても喜んでくれる。
物を大切にするということを今の段階から子供に呼びかけていくことが大切だと思う。

委 員 長：小学校４年生から環境教育が義務付けられている。エコロジーの基本は物を大切にするということ。

安城市では、環境教育で訪れるごみ処理場でＮＰＯの人が積極的に説明をしていた。

後藤委員：ごみ処理設備について、豊橋市は他都市と比べると恵まれているように見える。その中でごみ減量について急いでやらなければならないことは何なのか。問題点をもっと明確にする必要がある。

荻野次長：資源化センターの焼却施設１・２号炉は稼動開始から１０年目、３号炉は２０年目になる。また、ストックできるごみの量は１０日分しかない。焼却施設はトラブルの発生で停止することもあるので、ごみの減量が喫緊の課題になっている。

後藤委員：困っていることをもっとアピールしないといけない。一見すると大丈夫なように見えてしまう。

榎本課長：一部の市民のごみ出しマナーが非常に悪い。しっかり分別すれば収集コストも下がる。
大人を対象とした教育が大切です。

委 員 長：危険ごみについて、何か問題がありますか。

榎本課長：平成２２年度はパッカー車の火災が８件ありました。カセットコンロや殺虫剤のスプレーが混入していたことが主な原因です。
パッカー車の購入には一台７００万円程度かかり、修理も１回１００～２００万円と高額になります。

委 員 長：ごみ収集車の車両火災はたくさん発生している。
名古屋市では分別施設で火災があった。

野亦委員：火災が発生したときの対応はどのようにしていますか。

榎本課長：火災が発生したときの収集地区に対して、消防と連携して戸別にチラシ

を配布しています。火災は秋に多いので時期に合わせて全市的には広報、戸別地域にはビラを配っています。

委 員 長：埋立処理にかかる１トンあたりの費用はどのくらいになりますか。

村田課長：１トン当たり１６，０００円です。

委 員 長：愛知アセック（衣浦港）でも１６，０００円。安いほうだと思います。

村田課長：年間埋立量１６，０００トンのうち、１割ほどは掘り起して資源化センターで再焼却している。１０年で１年分を節約しています。

委 員 長：そろそろ時間となりますので、第１回の検討委員会は終了とさせていただきます。

○　その他（事務局からの説明）

- 市民アンケートの実施について
- 豊橋市のごみ処理に関する取り組みについて
- 今後の予定